

証券コード6859

2025年度(2026年3月期) 第2四半期
エスペック株式会社 決算説明

2025年11月21日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

2025年度上期 決算概要

- ・AI半導体関連の電子部品・電子機器の試験需要が堅調、北米では衛星通信関連の投資が好調
受注高は過去最高を更新するも、大型製品や複数台一括の長納期案件が多く、売上高は前年同期並み
- ・利益面は、カスタム製品の収益性改善は進んでいるが、EV需要減速に伴う受託試験サービスの収益性悪化や中国における競争激化により前年同期比で減少
- ・上期の進捗を踏まえ通期業績予想を修正、配当は修正なし、株主還元方針に基づく自社株買いの実施を発表

	前年同期比		期初予想比	
■受注高	○	特に装置事業(環境試験器)とその他事業が増加	○	装置事業(主に環境試験器)とその他事業が上回る
■売上高	△	装置事業は半導体関連装置が増加したが環境試験器は長納期案件が多く減少、エネルギーデバイス装置も減少。サービス事業は受託試験が伸びず前年同期並み	×	装置事業は半導体関連装置が増加したが環境試験器は長納期案件が多く減少。サービス事業は主に受託試験が下回る
■営業利益	×	売上高の遅れおよび原価率の悪化により減少	×	売上高の未達および原価率の悪化により下回る
■親会社株主に帰属する中間純利益	×	営業利益の減少により減少	×	営業利益の未達により下回る

■ 配当予想 中間45円、期末70円、年間115円

2025年度通期業績予想

(百万円)

	2024年度	2025年度						
	通期実績	期初予想			上期実績	予想(11/13修正)		
		上期	下期	通期		下期	通期	前期比
受注高	67,514	33,500	32,500	66,000	38,636	30,364	69,000	+2.2%
売上高	67,288	31,000	37,000	68,000	30,322	37,678	68,000	+1.1%
売上総利益 利益率(%)	23,987 35.6%	11,500 37.1%	13,900 37.6%	25,400 37.4%	10,554 34.8%	13,646 36.2%	24,200 35.6%	+0.9% ±0pt
販管費 販管費率(%)	16,460 24.5%	8,150 26.3%	8,750 23.6%	16,900 24.9%	7,947 26.2%	8,653 23.0%	16,600 24.4%	+0.8% △0.1pt
営業利益 利益率(%)	7,526 11.2%	3,350 10.8%	5,150 13.9%	8,500 12.5%	2,607 8.6%	4,993 13.3%	7,600 11.2%	+1.0% ±0pt
経常利益 利益率(%)	7,793 11.6%	3,450 11.1%	5,200 14.1%	8,650 12.7%	2,704 8.9%	5,045 13.4%	7,750 11.4%	△0.6% △0.2pt
親会社株主に帰属 する当期純利益 利益率(%)	6,003 8.9%	2,500 8.1%	3,690 10.0%	6,190 9.1%	1,912 6.3%	3,887 10.3%	5,800 8.5%	△3.4% △0.4pt
1株当たり 当期純利益(円)	274.97	114.51	169.02	283.53	87.49	177.61	265.10	△3.6%
ROE	11.0%	—	—	11.0%	—	—	10.0%	△1.0pt

2025年度通期業績予想の考え方

- ・受注高は、中計ターゲット市場のAI半導体、北米の衛星通信を中心に堅調、通期計画を上方修正
- ・売上高は、受注残高の消化が進むとともに、比較的納期の短い標準製品の販売強化による売上拡大を見込んでいることから、期初計画を据え置く
- ・利益面は、装置事業は利益率向上が進み、中国の収益改善も見込むが、EV需要減速に伴う受託試験サービスの挽回は難しく、下方修正

2025年度上期 損益の状況

(百万円)

	2024年度 2 Q累計実績	2025年度 2 Q累計予想	2025年度 2 Q累計実績	前年同期比	予想比
受注高	36,621	33,500	38,636	+5.5%	+15.3%
売上高	30,464	31,000	30,322	△0.5%	△2.2%
売上原価 原価率	19,326 63.4%	19,500 62.9%	19,767 65.2%	+2.3% 1.8pt悪化	+1.4% 2.3pt悪化
売上総利益	11,137	11,500	10,554	△5.2%	△8.2%
販管費	7,841	8,150	7,947	+1.3%	△2.5%
営業利益 利益率	3,296 10.8%	3,350 10.8%	2,607 8.6%	△20.9% 2.2pt悪化	△22.2% 2.2pt悪化
経常利益	3,398	3,450	2,704	△20.4%	△21.6%
親会社株主に帰属 する中間純利益	2,452	2,500	1,912	△22.0%	△23.5%

2025年度上期 セグメント別の損益の状況

(百万円)

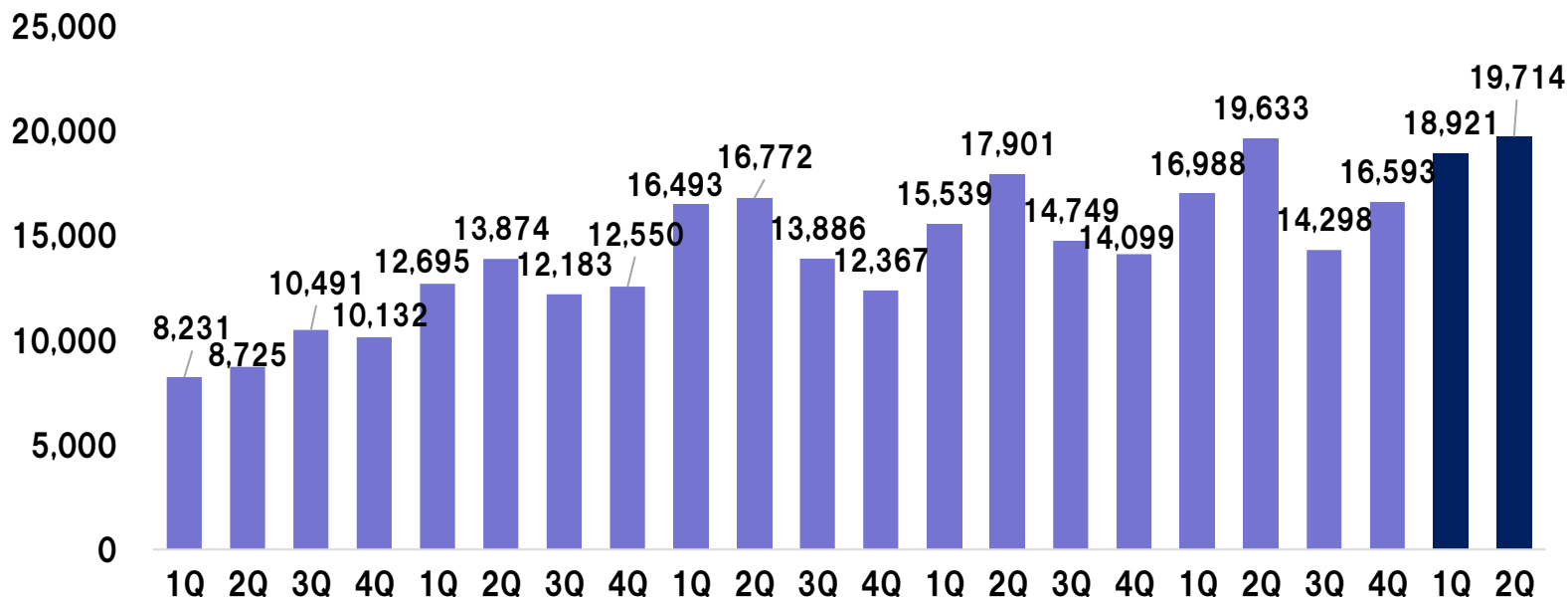
		2024年度 2Q累計実績	2025年度 2Q累計予想	2025年度 2Q累計実績	前年同期比	予想比
装置事業	受注高	31,868	28,430	33,127	+3.9%	+16.5%
	売上高	26,469	26,420	25,887	△2.2%	△2.0%
	営業利益	3,013	2,910	2,551	△15.3%	△12.3%
サービス事業	受注高	4,176	4,520	4,224	+1.2%	△6.5%
	売上高	3,701	4,210	3,780	+2.1%	△10.2%
	営業利益	324	490	56	△82.4%	△88.4%
その他事業	受注高	808	800	1,500	+85.6%	87.6%
	売上高	521	600	880	+68.7%	46.8%
	営業利益	△31	△50	△2	-	-
連結消去	受注高	△232	△250	△215	-	-
	売上高	△227	△230	△226	-	-
	営業利益	△10	0	1	-	-
計	受注高	36,621	33,500	38,636	+5.5%	+15.3%
	売上高	30,464	31,000	30,322	△0.5%	△2.2%
	営業利益	3,296	3,350	2,607	△20.9%	△22.2%

2025年度上期 受注高

- 受注高は前年同期比で減少予想だったが、ターゲット市場のAI半導体関連が堅調、北米では衛星通信関連が想定以上に拡大、東南アジアは半導体、エレクトロニクス関連の投資が好調、上期受注高は、5期連続で過去最高を更新

四半期ごとの受注高推移

(百万円)



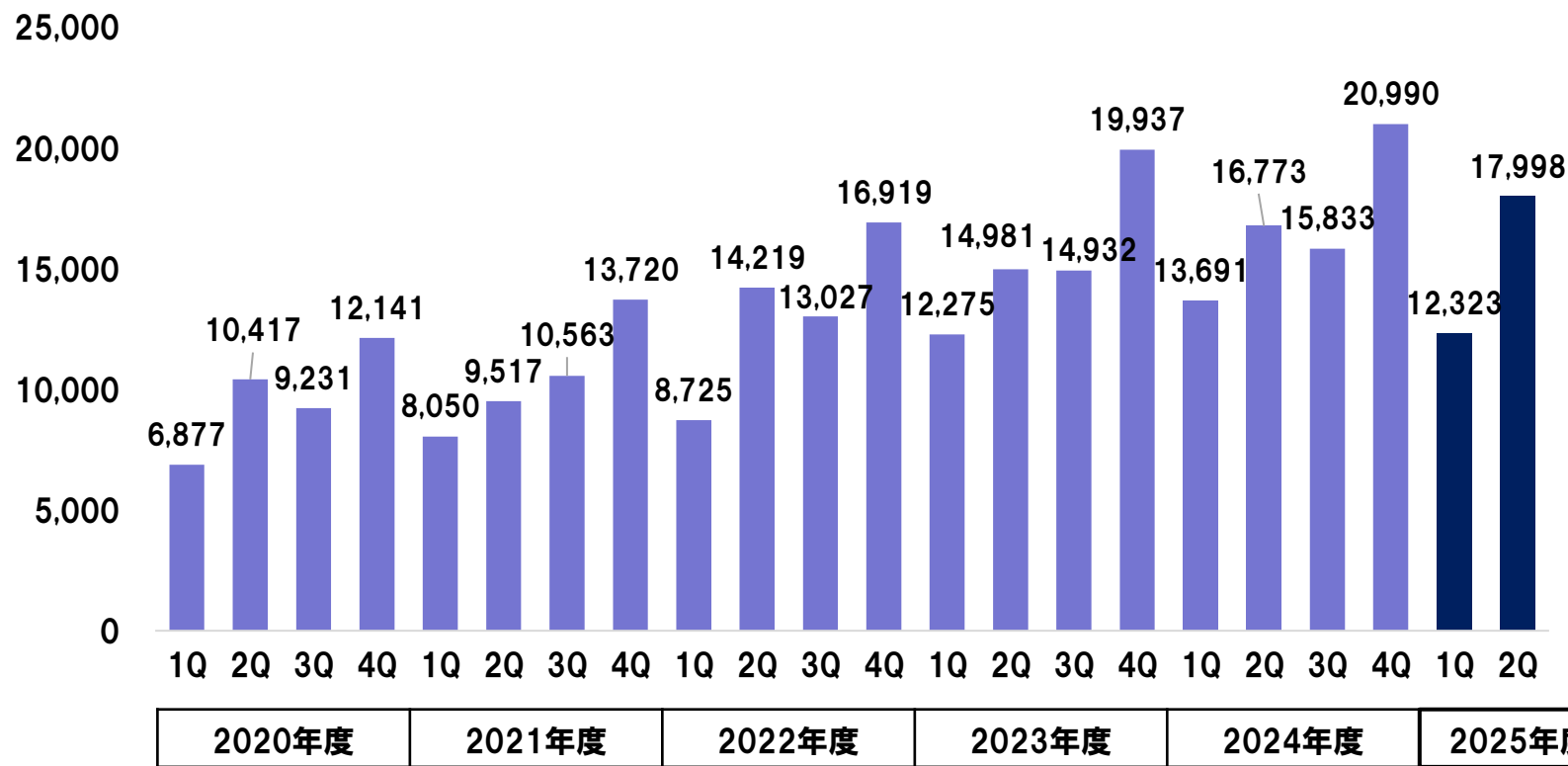
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
--------	--------	--------	--------	--------	--------

2025年度上期 売上高

- 長納期案件の増加により、第2四半期に売上が集中
上期売上高は前年同期並み

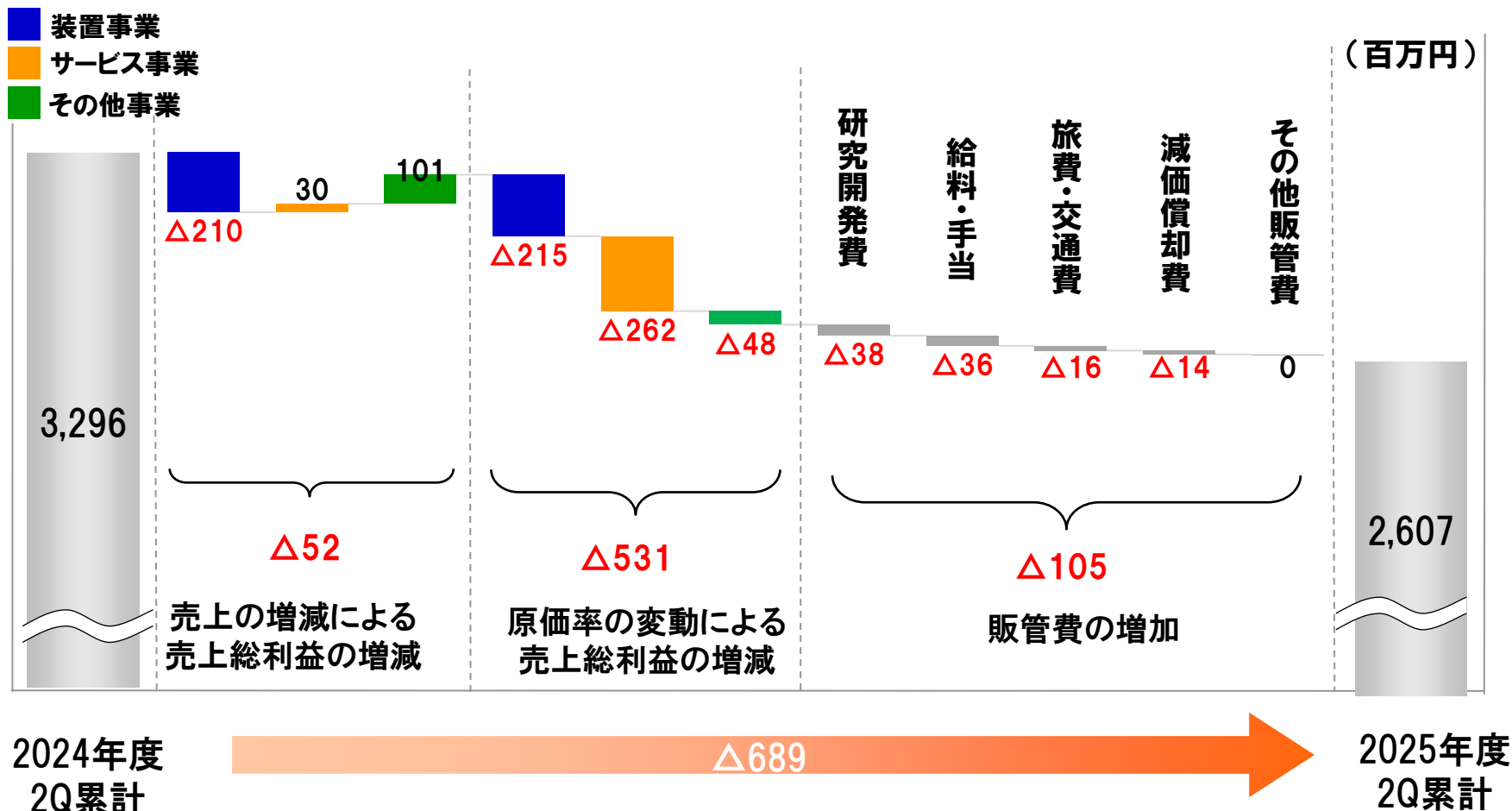
四半期ごとの売上高推移

(百万円)



上期営業利益の増減要因分析

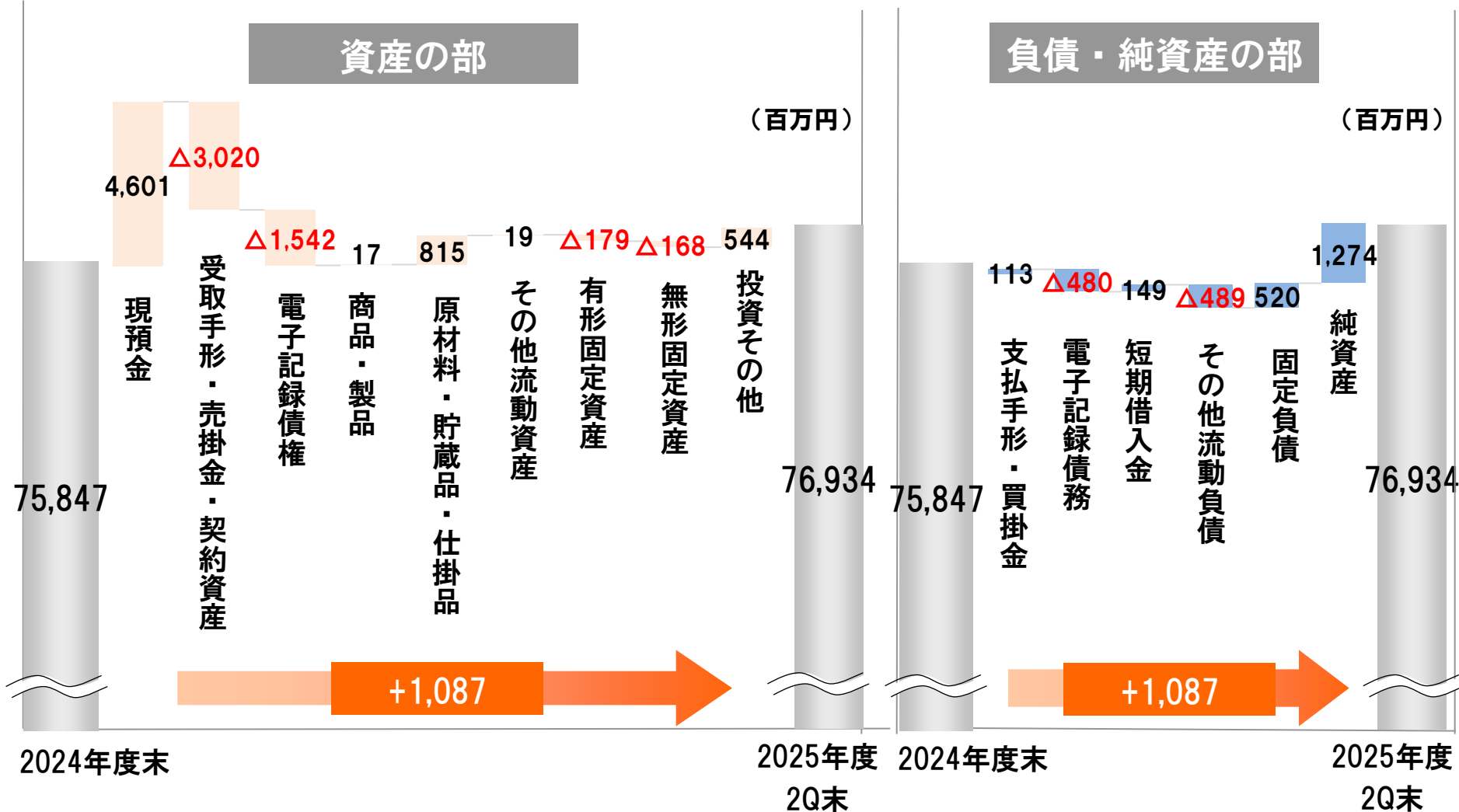
- 装置事業は、長納期案件の増加による売上高の遅れや、カスタム製品の収益性改善は進んでいるものの中国における競争激化により減益。サービス事業は受託試験の売上が伸びず原価率が悪化し減益。販管費は成長に向けた研究開発費や受注拡大に伴う活動費が増加



※合計値は全体の売上総利益率を用いて算出しています。

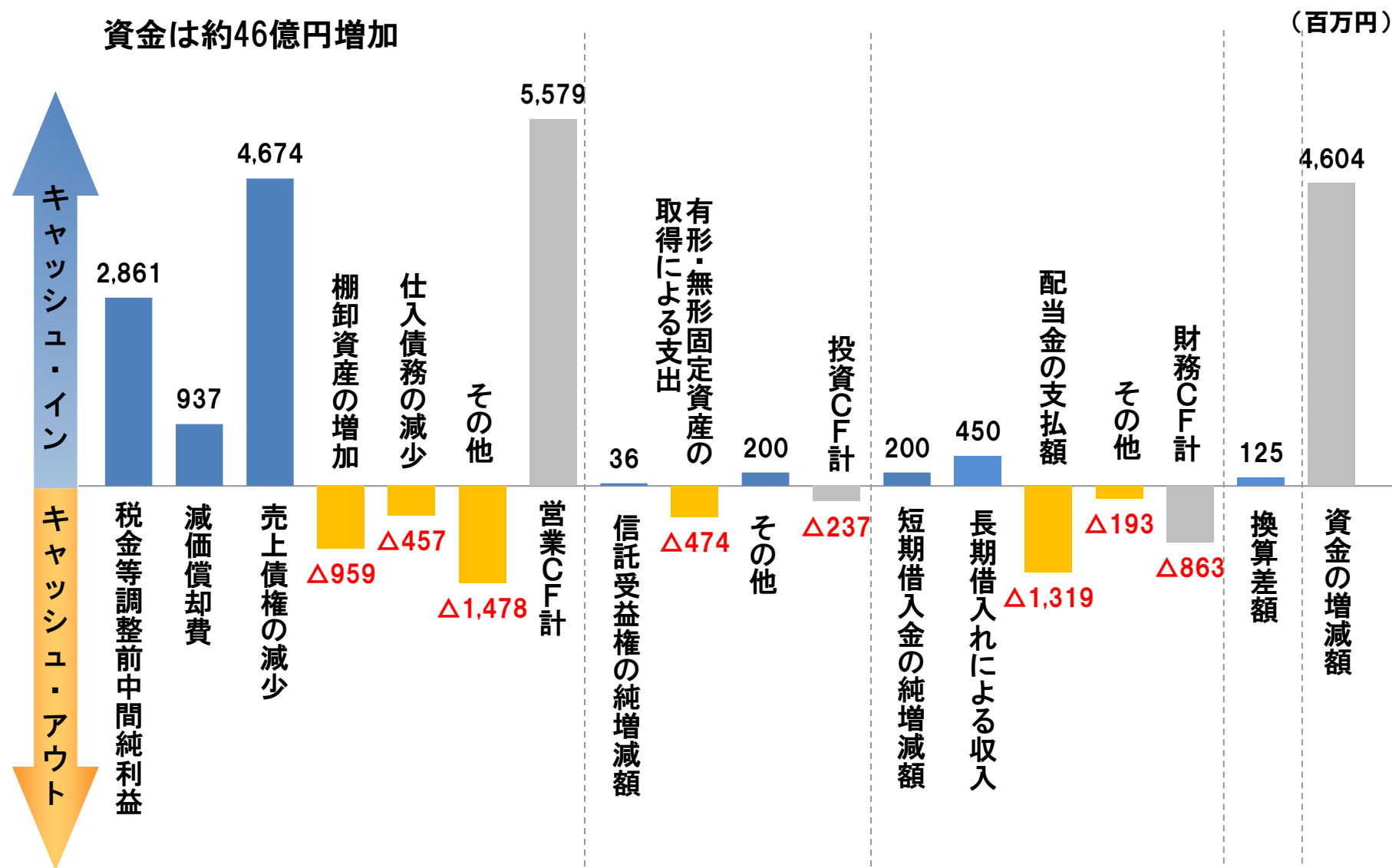
資産・負債の状況

■ 売上債権の回収が進み現預金が増加するとともに、受注残高の増加により棚卸資産が増加し、総資産は約11億円増加



キャッシュフローの状況

■ 主に税金等調整前中間純利益の計上や売上債権の減少により、
資金は約46億円増加



装置事業セグメント

(百万円)

	2024年度 2Q累計実績	2025年度 2Q累計予想	2025年度 2Q累計実績	前年同期比	予想比
受注高	31,868	28,430	33,127	+3.9%	+16.5%
売上高	26,469	26,420	25,887	△2.2%	△2.0%
営業利益	3,013	2,910	2,551	△15.3%	△12.3%
利益率	11.4%	11.0%	9.9%	△1.5pt	△1.1pt

環境試験器

- 国内では、汎用性の高い標準製品は前年同期比で受注高・売上高ともに増加
カスタム製品は、EV・バッテリー関連を中心に好調であった前年同期と比較して
受注高は減少したものの、売上高はAI半導体関連が堅調に推移し増加
- 海外では、前年同期比で受注高は北米、東南アジアにおいて大幅に増加したが、
長納期案件が多く売上高は減少

エナジーデバイス装置

- EVバッテリー向け投資が一巡し、前年同期比で受注高・売上高ともに大幅に減少

半導体関連装置

- 受注高は前年同期比で減少したが、売上高はAIサーバー用電子部品向け一括案件の売上計上
により大幅に増加

サービス事業セグメント

(百万円)

	2024年度 2Q累計実績	2025年度 2Q累計予想	2025年度 2Q累計実績	前年同期比	予想比
受注高	4,176	4,520	4,224	+1.2%	△6.5%
売上高	3,701	4,210	3,780	+2.1%	△10.2%
営業利益	324	490	56	△82.4%	△88.4%
利益率	8.8%	11.6%	1.5%	△7.3pt	△10.1pt

アフターサービス・エンジニアリング

- 予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

受託試験・レンタル

- EV需要減速に伴う投資抑制や開発計画の変更の影響を受け、前年同期比で受注高が減少し、売上高は前年同期並み

その他事業セグメント

(百万円)

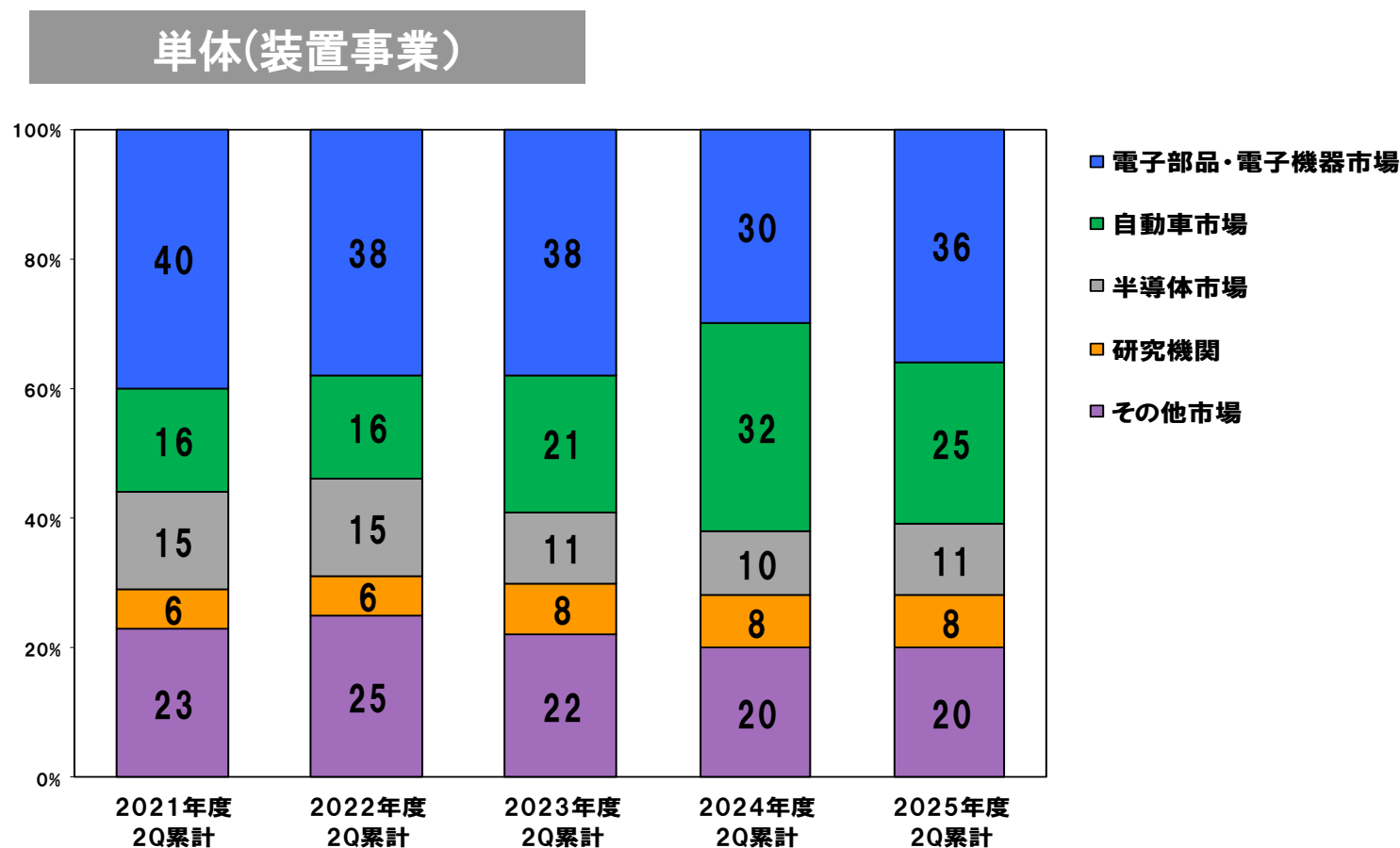
	2024年度 2Q累計実績	2025年度 2Q累計予想	2025年度 2Q累計実績	前年同期比	予想比
受注高	808	800	1,500	+85.6%	+87.6%
売上高	521	600	880	+68.7%	+46.8%
営業利益 利益率	△31 △5.9%	△50 △8.3%	△2 △0.3%	-	-

環境保全・植物育成装置

- 植物工場の大型案件を獲得するとともに、植物研究用装置や森づくりも堅調に推移

市場別売上構成比

- 電子部品・電子機器、半導体市場は、AI半導体関連の試験需要が増加し構成比が上昇
- 自動車市場は、EV・バッテリー関連の投資に一服感が見られ構成比が低下

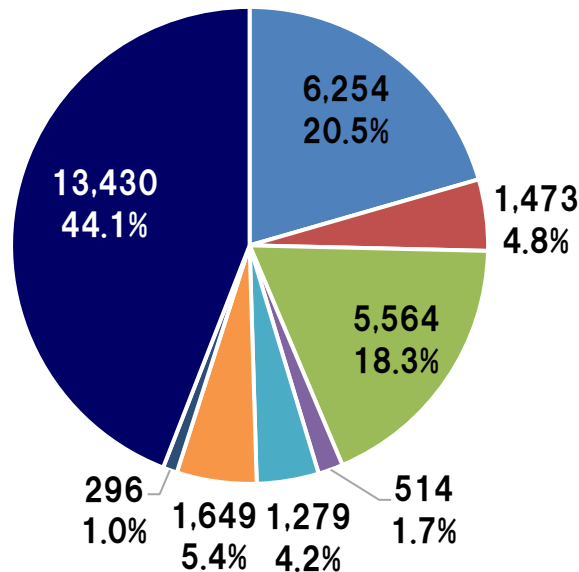


地域別売上構成比

- 売上高は日本、東南アジア・インド、台湾、韓国が増加。
北米は受注好調も長納期案件が多く減少、中国は前年同期並み

2024年度 2Q累計

海外売上高比率:55.9%



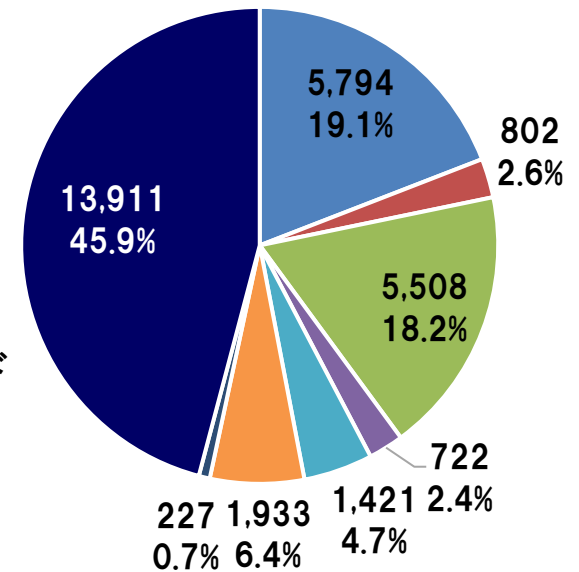
計 30,464百万円

海外売上高:17,033百万円

2025年度 2Q累計

海外売上高比率:54.1%

- 北米
- 欧州
- 中国
- 台湾
- 韓国
- 東南アジア・インド
- その他
- 日本



計 30,322百万円

海外売上高:16,410百万円

中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」の進捗状況

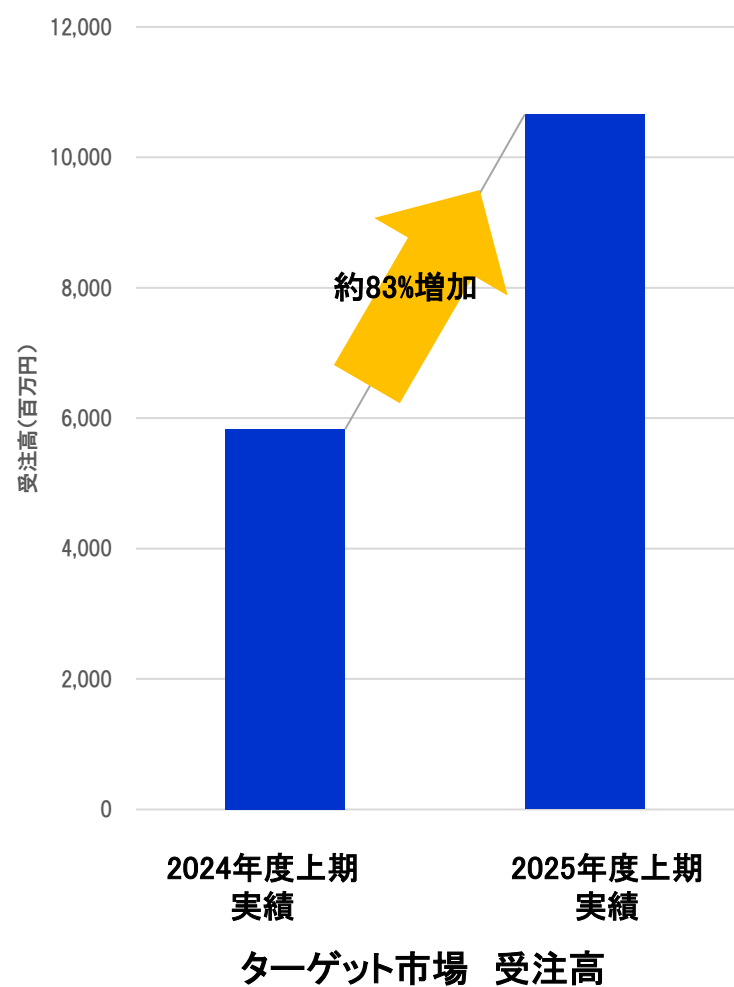
- ・中計「PROGRESSIVE PLUS 2027」(2025～2027年度)の初年度として、ターゲット市場の開拓やモノづくりの高効率化に向けた投資計画策定、新製品開発は計画通り進捗
- ・株主還元方針に基づき、11月13日に自社株買いの実施を発表
- ・成長戦略の着実な実行と収益性改善施策の強化により基本方針「筋肉質で持続可能な高利益体質の確立」を目指す

■中計 2027年度目標

売上高 700億円
営業利益 105億円
営業利益率 15.0%
当期純利益 76億円
ROE 12.0%以上

中計 ターゲット市場の試験需要と開拓状況

■ ターゲット市場（AI半導体、自動運転、衛星通信）の受注高は、AI半導体は日本、東南アジアが好調、また北米にて衛星通信が拡大し、前年同期比で約83%増加



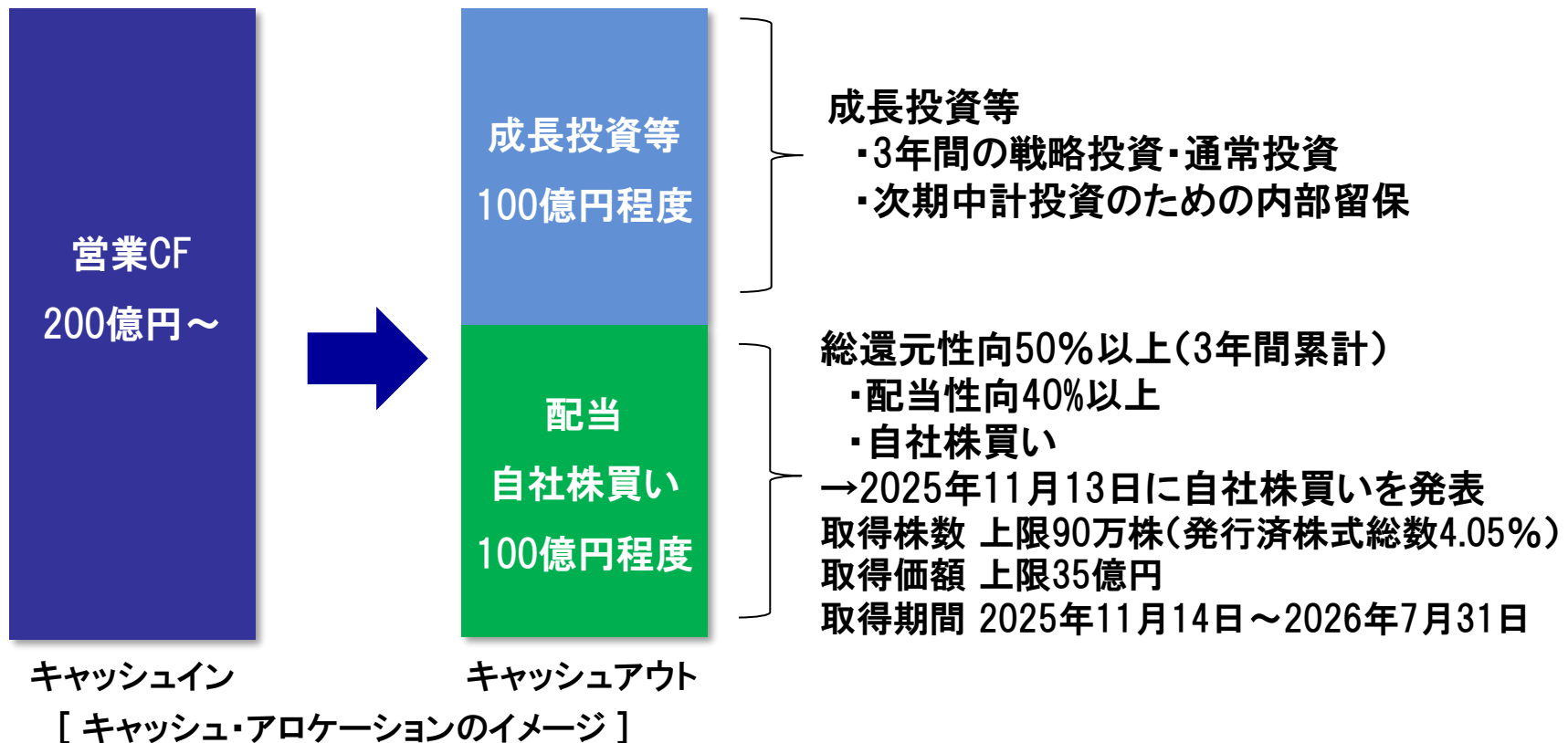
市場	試験対象	提供製品
AI半導体	AIサーバー 半導体 電子部品・材料 HDD、SSD	ハイパワー恒温恒湿器 急速温度変化チャンバー 恒温恒湿器・室 冷熱衝撃装置 高度加速寿命試験装置 HDD検査装置 計測システム
自動運転	統合ECU センシングデバイス	ハイパワー恒温恒湿器 恒温恒湿器 小型環境試験器 冷熱衝撃装置
衛星通信	小型人工衛星 人工衛星搭載部品	HALT試験装置 ハイパワー恒温恒湿器 冷熱衝撃装置 恒圧恒温恒湿器

キャッシュ・アロケーション方針(2025～2027年度)

キャッシュ・アロケーション方針

3年間で創出したキャッシュを成長投資と株主還元積極的に配分する

■配当と自社株買いで総還元性向50%以上(3年間累計)の株主還元を実施



株主還元方針と2025年度配当予想

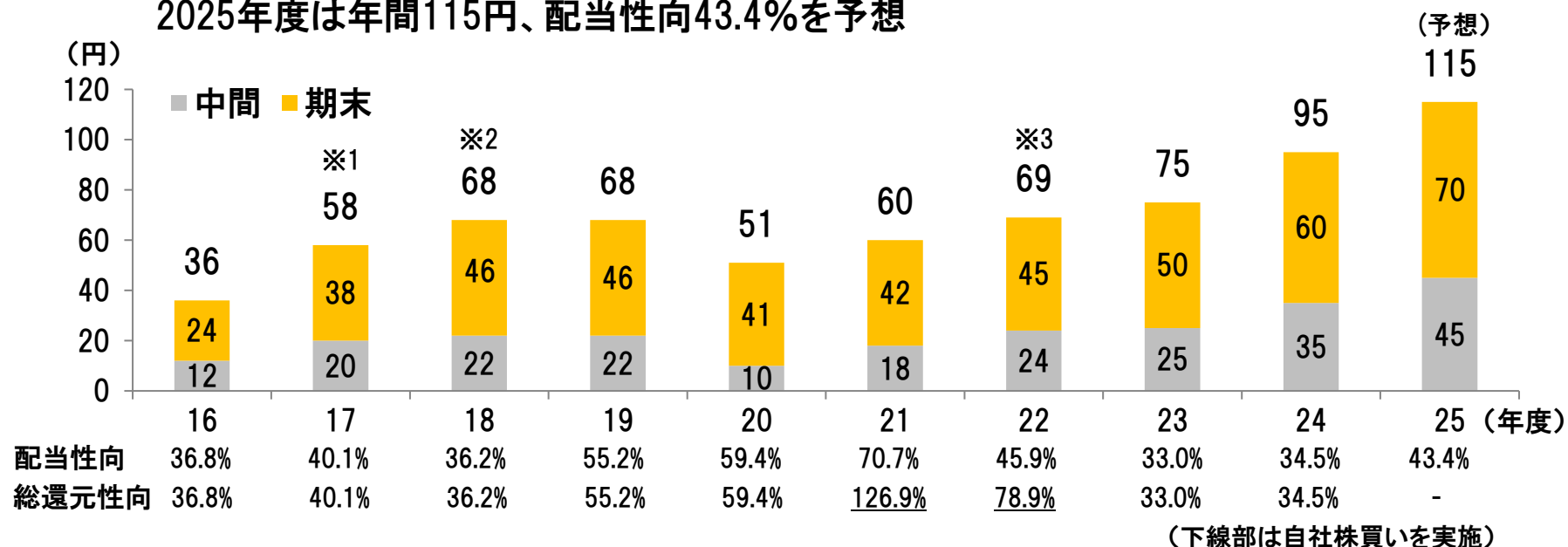
株主還元方針

配当性向を40%以上とし自己株式取得を機動的に実施

中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」(2025～2027年度)の期間は、
3年間累計で総還元性向を50%以上とし減配しない

一株当たり配当金と配当性向・総還元性向

2025年度は年間115円、配当性向43.4%を予想



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

2025年度 環境認識

中計ターゲット市場のAI半導体、衛星通信を中心にグローバルに受注獲得を目指す

装置事業	環境試験器	<p>日本 :EV・バッテリー向け投資(主に生産用途)は減少、 AI半導体関連の投資は堅調</p> <p>中国 :自動車関連は低迷、半導体・エレクトロニクスは堅調</p> <p>ASEAN:半導体・エレクトロニクスが好調</p> <p>インド:半導体関連が好調、自動車(四輪、二輪)も堅調</p> <p>北米 :衛星通信関連を中心に好調</p> <p>欧州 :経済減速により低調</p>
	エナジーデバイス装置	EVバッテリー向け投資の一巡により低調
	半導体関連装置	メモリ向けは低調、AIサーバー向けバーンイン装置や計測システムは堅調
サービス事業	アフターサービス 受託試験・レンタル	<p>アフターサービス :保守契約拡販により堅調に推移</p> <p>受託試験 :EVバッテリー関連の試験は踊り場、バッテリー以外の 電動化・自動運転モジュール向け環境試験は堅調</p>
その他事業	環境保全 植物育成装置	植物工場や植物研究用装置など植物育成装置が堅調

2025年度 セグメント別の業績予想

(百万円)

		2024年度	2025年度	2025年度			
		通期実績	通期 期初予想	上期 実績	予想(11/13修正)		
					下期	通期	前期比
装置事業	受注高	57,283	55,500	33,127	25,513	58,640	+2.4%
	売上高	57,507	57,600	25,887	31,672	57,560	+0.1%
	営業利益	6,610	7,340	2,551	4,428	6,980	+5.6%
	利益率	11.5%	12.7%	9.9%	14.0%	12.1%	+0.6pt
サービス事業	受注高	8,532	9,200	4,224	4,295	8,520	△0.2%
	売上高	8,425	9,200	3,780	4,859	8,640	+2.5%
	営業利益	793	1,080	56	443	500	△37.0%
	利益率	9.4%	11.7%	1.5%	9.1%	5.8%	△3.6pt
その他事業	受注高	2,170	1,800	1,500	840	2,340	+7.8%
	売上高	1,758	1,700	880	1,419	2,300	+30.8%
	営業利益	126	80	△2	123	120	△5.5%
	利益率	7.2%	4.7%	△0.3%	8.6%	5.2%	△2.0pt
連結消去	受注高	△472	△500	△215	△285	△500	-
	売上高	△403	△500	△226	△273	△500	-
	営業利益	△4	0	1	△2	0	-
計	受注高	67,514	66,000	38,636	30,364	69,000	+2.2%
	売上高	67,288	68,000	30,322	37,678	68,000	+1.1%
	営業利益	7,526	8,500	2,607	4,993	7,600	+1.0%
	利益率	11.2%	12.5%	8.6%	13.3%	11.2%	±0pt

2025年度 投資計画

中計3年間の成長投資計画95億円、研究開発費計画48億円は変更なし

(百万円)

	2024年度	2025年度			
	通期実績	上期実績	予想(修正なし)		
			下期	通期	前期比
設備投資額	3,690	719	1,871	2,590	△29.8%
減価償却費	1,716	927	1,063	1,990	+15.9%
研究開発費	1,343	730	1,100	1,830	+36.2%

■2025年度

主な投資内容

- ・福知山工場の生産設備増強
- ・国内子会社の生産能力強化
(事業所移転)

主な開発内容

- ・先端技術分野の製品ラインアップ拡充
(主力製品のモデルチェンジ、機種追加)
- ・低GWP冷媒など環境配慮型製品の拡充

2025年度 想定為替レート

■ 想定為替レート

	2024年度		2025年度	
	上期実績	通期実績	上期実績	通期想定
USDドル(円)	152.77	152.62	146.03	145
ユーロ(円)	166.05	163.87	168.05	160
元(円)	21.16	21.11	20.29	20

2025年度為替感応度 (百万円)

	売上高	営業利益
USDドル	+74	+11
ユーロ	+15	+10
元	+51	+9

※1円円安(元は0.1円)変動時の影響

2025年度 主な取り組み

装置事業

- ・受注残高の消化、標準製品の販売強化、カスタム製品の収益性改善の継続
- ・ターゲット市場の試験ニーズに合致した高付加価値製品の開発および販売強化

サービス事業

アフターサービス：サービス技術料見直し、稼働率改善による原価低減
受託試験：電動化・自動運転モジュール、航空機器関連の受注拡大

エリア戦略

日本：AI半導体、自動運転分野での営業活動強化、買い替え需要の獲得
米国：衛星通信分野への販売強化、生産能力増強による収益拡大
中国：半導体、通信分野への、競争力のある製品投入・販売強化による収益改善

2025年度 ESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・第8次環境中期計画(2022～2025年度)の推進
- ・地球温暖化対策:
低GWP冷媒への置き換え、製造など事業活動におけるCO₂排出量削減
- ・生物多様性保全活動:
環境保全事業による貢献、「エスペック50年の森」運営による保全活動の推進
TNFD提言に基づく自然資本関連情報開示

■S(社会)

- ・人的資本戦略の展開、新しい人事評価制度の運用開始
- ・インターナルコミュニケーションの推進、健康経営宣言・方針の策定、
エンゲージメント調査の実施
- ・女性管理職の育成(2025年4月女性管理職比率9.8%)、障がい者雇用の促進と定着化
- ・信託型従業員持株インセンティブ・プランの導入

■G(ガバナンス)

- ・BCPの再構築
- ・人権方針の策定

AIサーバー市場向け新製品

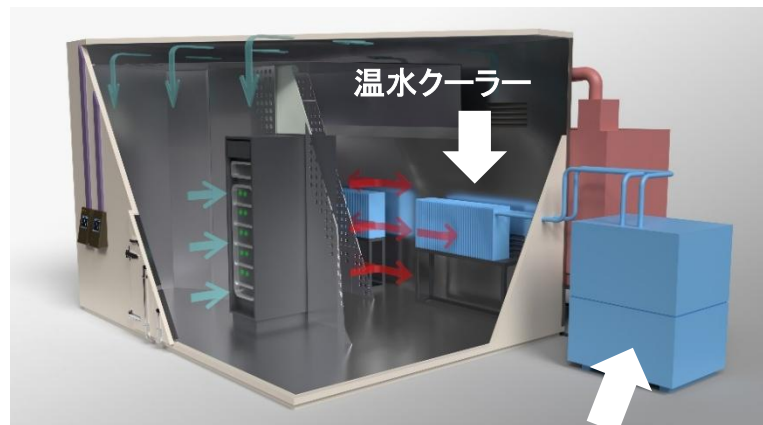
■高発熱負荷対応 恒温恒湿室ウォークインチャンバー

- ・2025年10月、AIサーバーの信頼性評価用として、高発熱負荷に対応した2機種を発売
- ・サーバーによる発熱負荷(30kW、60kW)に対し、独自の制御システムにより精密な温湿度制御を実現
- ・サーバーの信頼性評価に適用される試験規格ASHRAEに適合した試験が可能



恒温恒湿室ウォークインチャンバー

＜試験室の内部イメージ＞



温水クーラー専用チラー

従来の空調システム+温水クーラーを使った空調システムの組み合わせにより湿度環境にて60kW以上の発熱負荷に対応

TOPICS 2

AI半導体・自動運転市場向け新製品

■高度加速寿命試験装置(HAST CHAMBER)

EHS-222M-L

- ・2025年10月、高度加速寿命試験装置に、大型基板の試験に対応したモデル(EHS-222M-L)をラインアップ
- ・一度の試験で大量の試料を評価することが可能
- ・電子部品等の開発期間短縮と高信頼性の確保に貢献



高度加速寿命試験装置 EHS-222M-L

■急速温度変化チャンバー TCC-151W-20

- ・2025年4月、急速温度変化チャンバーに試料温度を20°C/分で制御可能なハイパフォーマンスモデルをラインアップ
- ・半導体パッケージの信頼性試験規格、エレクトロニクス、自動車市場などの国際規格に適合
- ・低GWP※冷媒「R-449A」を標準搭載



急速温度変化チャンバー TCC-151W-20

※GWP:地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない

「あいち次世代モビリティ・テストラボ」サービス開始 車載用バッテリーおよびEV・自動化モジュールの試験需要に対応

■あいちバッテリー安全認証センター

- ・国内最大級の車載用バッテリー専門試験所として2025年2月開設
- ・最新の試験設備により、車載用バッテリーの大型化・大容量化に対応
- ・国連規則ECE-R100の安全性試験をはじめとする各種試験規格に対応



あいちバッテリー安全認証センター
(愛知県常滑市)

■豊田試験所

- ・当社最大の総合試験所である豊田試験所の機能を拡張(2025年4月サービス開始)
- ・e-Axle・PCU・ECUなど供試品の大型化に対応
- ・EV・自動化モジュールの動作状態での使用環境を再現し、評価・計測するサービスを新たに強化



豊田試験所(愛知県豊田市)

社外からの評価

■ ESG関連の評価

- ・ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
ESG指数「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」組み入れ
- ・CDP 気候変動分野の調査で5年連続「Bスコア」、水セキュリティは「B-スコア」
「サプライヤーエンゲージメント評価」では、3年連続最高評価の
「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定
- ・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ
「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に2年連続で選定
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5星
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」3つ星
- ・神戸R&Dセンターが全国みどりの工場大賞「経済産業大臣賞」受賞
- ・厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として「プラチナくるみん」取得
- ・大阪市「女性活躍リーディングカンパニー」認証にて
「三つ星認証」「イクメン推進企業認証」取得

■ IRサイトの評価

- ・「大和インターネット IR表彰」優良賞
- ・日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト
- ・「Gomez IRサイトランキング」銅賞(業種別17位)
- ・「Gomez ESGサイトランキング」優秀企業



証券コード6859

参考資料

会社紹介・事業概要

2025年11月21日
エスペック株式会社

会社概要

[環境試験器の世界トップメーカー]

会 社 名 エスペック 株式会社

本社住所 大阪市 北区 天神橋 3-5-6

代表者 代表取締役 執行役員社長
荒田 知（あらた さとし）

創業年月日 1947年(昭和22年)7月25日

設立年月日 1954年(昭和29年)1月13日

資 本 金 6,895百万円

発行済株式総数 23,781,394株

従業員数 1,860(連結)

事業内容 環境試験器、エネルギーデバイス装置、半導体関連装置、
植物工場の製造・販売、アフターサービス、受託試験など



本社

環境試験器シェア

世界30%以上 国内60%以上

※シェアは当社推定

(2025年3月31日現在)

グローバルネットワーク

連結子会社 13社
(海外9社、国内4社)

海外ネットワーク
50カ所(国・地域)
44社

国内営業・サービス拠点
16カ所
国内代理店 46社

欧州

● ESPEC EUROPE GmbH
△ ESPEC IKLIM KABINLERI
SATIS VE MUHENDISLIK
LIMITED SIRKETI

日本

エスペック(株) ※
● エスペックアシスト(株)
● エスペックミック(株)
● エスペックサーマルテックシステム(株) ※
● コスモピアハイテック(株) ※

アジア

● 上海愛斯佩克環境設備有限公司 ※
● 愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
● 愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司 ※
● 愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
● ESPEC(CHINA)LIMITED
● ESPEC KOREA CORP. ※
● ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.
△ ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

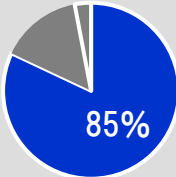
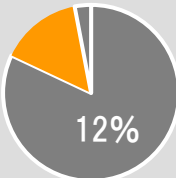
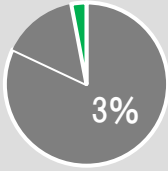
米国

● ESPEC NORTH AMERICA INC. ※

● 印…連結子会社
△ 印…非連結子会社

※は生産機能を持つ会社

事業概要(各事業の市場／用途)

		主要製品	市場	用途	売上構成比 2024年度
装置事業	環境試験器	<div><div>・恒温恒湿器</div><div>・冷熱衝撃装置</div><div>・小型環境試験器</div><div>・ハストチャンバー</div></div> <div><div>・恒温恒湿室</div><div>・複合環境試験機</div><div>・HALT試験装置</div><div>・FPD装置</div></div>	<div>・電子部品、電子機器</div> <div>・自動車</div> <div>・半導体</div> <div>・医薬品、食品等</div> <div>・LCD、有機EL</div>	<div>・R&D</div> <div>・信頼性評価</div> <div>・生産、検査</div>	 <div>85%</div>
	エナジーデバイス装置	<div><div>・二次電池充放電サイクル評価装置</div><div>・二次電池安全性評価装置</div><div>・燃料電池評価装置</div></div>	<div>・次世代自動車</div> <div>・二次電池</div> <div>・燃料電池</div>	<div>・R&D</div> <div>・信頼性評価</div> <div>・安全性評価</div> <div>・生産</div>	
	半導体関連装置	<div><div>・バーンイン装置</div><div>・計測システム</div></div>	<div>・半導体</div> <div>・自動車</div>	<div>・生産、検査</div> <div>・開発、評価</div>	
サービス事業	アフターサービスエンジニアリング	<div><div>・アフターサービス</div><div>・機器周辺工事</div></div>	<div>・電子部品、電子機器</div> <div>・自動車</div> <div>・半導体</div>	—	 <div>12%</div>
	受託試験レンタル	<div><div>・受託試験</div><div>・リセール</div></div> <div><div>・機器レンタル</div><div>・校正</div></div>		<div>・R&D</div> <div>・信頼性評価</div>	
その他事業	環境保全	森づくり、水辺づくり、都市緑化			 <div>3%</div>
	植物育成装置	植物工場、研究用育苗装置など			

環境試験の沿革

環境試験とは

電子部品などのさまざまな工業製品について、温度、湿度、圧力、振動などの環境因子による影響を分析・評価し、製品の品質を確保するための試験

<1950年代>

日本で民生品の環境試験がJIS規格化



<1970年代～1990年代>

「信頼性」「品質管理」が製品開発の重要なテーマとなり、電子化・電装化の加速に伴い需要が飛躍的に拡大



<現在>

デジタル化、脱炭素化を背景にAI・IoTや次世代自動車の開発分野での需要が拡大



1961年 日本初の環境試験器を開発

世界シェア No.1

経産省「グローバルニッチトップ企業100選」を連続受賞(2013年度、2020年度)



低温恒温恒湿器 ルシファー



国内シェア
60%以上

世界シェア
30%以上

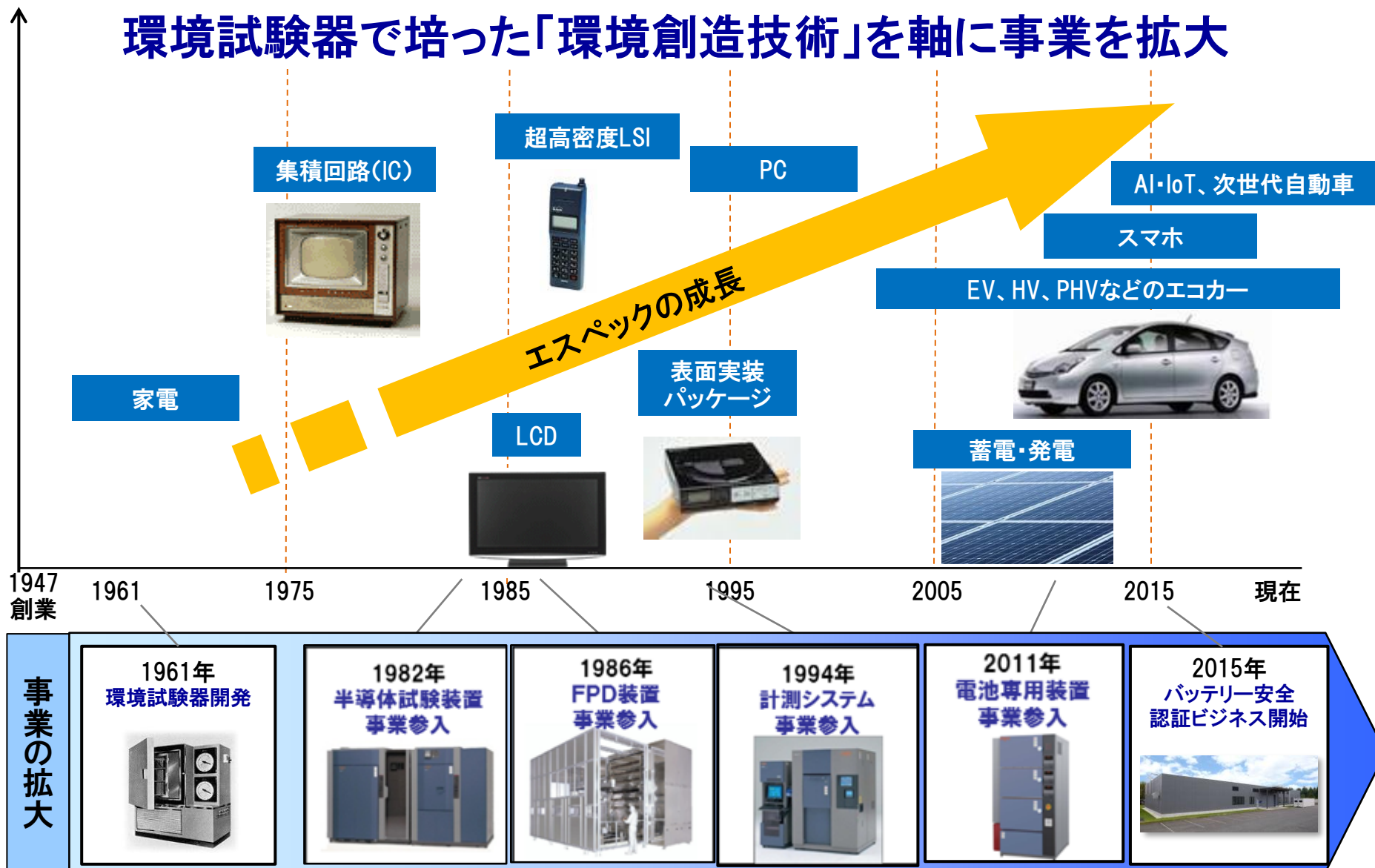
※シェアは当社推定



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ

事業の変遷

環境試験器で培った「環境創造技術」を軸に事業を拡大



エスペックの強み

トップシェア

- ・シェアは世界30%以上、国内60%以上（当社推定）
- ・国内で初めて環境試験器を開発し早期に国内外でブランドを確立、トップシェアを長年保持

技術力 製品・サービス力

- ・高品質かつ顧客の要望に応じた多種多様な製品を開発
- ・多品種少量生産を可能とする生産技術力
- ・製品はじめ受託試験やテクニカルサポートなど環境試験のトータルソリューション、アフターサービス力

グローバル体制

- ・充実したグローバルネットワークで各国のニーズに適合した製品をグローバルに提供

連結子会社：13社（海外9社、国内4社）

海外生産拠点：北米1社、中国2社、韓国1社

海外ネットワーク：50カ所（国・地域）44社


【装置事業】環境試験器の用途事例

部品・モジュール・完成品単位と繰り返し試験を実施し、新技術・新製品の信頼性を確保



環境試験の代表例

電気自動車(EV)イメージ

デバイス	プロセス／試験条件		当社製品
【パワーデバイス】 	検査	■ 冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
		■ 高温放置: $+175^{\circ}\text{C}$ 、 $+85^{\circ}\text{C}$	(小型)オープン
		■ バーンイン試験	バーンイン装置
【車載センサー】 	検査	■ 基板の温度サイクル試験: $-40^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow +110^{\circ}\text{C}$	低温恒温器(プラチナス)/オープン
		■ はんだ付け後の温度特性試験: $-30^{\circ}\text{C} \Rightarrow +85^{\circ}\text{C}$ をリニア変化	バーンイン装置・急速温度変化チャンバー
	評価	■ 冷熱衝撃試験: $-30^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow \text{RT} \Leftrightarrow +80^{\circ}\text{C}$ 、 $-55^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow +155^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
【CCD/CMOS】 	生産	■ 拡散試験: $+150^{\circ}\text{C}$	小型オープン
		■ 洗浄後の乾燥: $+85^{\circ}\text{C}$	クリーンオープン
	評価	■ スクリーニング: $+85^{\circ}\text{C}$	恒温器(プラチナス)/バーンイン装置
	検査	■ 温湿度試験: $+85^{\circ}\text{C}/+85\%\text{rh}$ 、 $+60^{\circ}\text{C}/90\%\text{rh}$	恒温恒湿器(プラチナス)
		■ 加速試験: $+120^{\circ}\text{C}/100\%\text{rh}$	HASTチャンバー
		■ 冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$ 、 $-20^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow +85^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置

【装置事業】主な新製品

発売日	製品名	特長
2025年10月	高発熱負荷対応 恒温恒湿室ウォークインチャンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・AIサーバーの高発熱負荷に対応 ・サーバーの信頼性評価試験規格ASHRAEに適合
2025年10月	高度加速寿命試験装置(HAST CHAMBER) 大型基板対応モデル	<ul style="list-style-type: none"> ・AI半導体・自動運転分野の試験需要に対応 ・一度の試験で大量の試料を評価可能、試験効率を向上
2025年4月	超低温ショックフリーザー	<ul style="list-style-type: none"> ・超低温-70℃の急速冷凍で生鮮食品の鮮度を保持 ・食品の冷凍、保存、解凍、再加熱までの工程を自動で完結
2025年4月	急速温度変化チャンバー ハイパフォーマンスモデル	<ul style="list-style-type: none"> ・試料温度を20℃/分で勾配制御可能 ・半導体パッケージの信頼性試験規格、エレクトロニクス、自動車市場などの国際規格に適合
2025年1月	受託計測サービスを拡充 (熱変形計測サービス・熱画像解析サービス)	<ul style="list-style-type: none"> ・熱変形計測システム:リフロー炉の温度環境(最大260℃)、大型基板サイズに対応 ・熱画像解析システム:高速・高精度の熱画像解析を実現
2024年11月	低GWP※冷媒「R-449A」搭載 低温恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ ECOタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の冷凍技術により、現行モデルと比較して消費電力を最大70%低減
2024年10月	低GWP※冷媒「R-473A」「R-449A」搭載 急速温度変化装置 プレミアムエクセレントシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会社であるコスモピアハイテックが発売 ・国際的な試験規格に適合した急速温度変化試験が可能

※GWP:地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない

【装置事業】新製品紹介①

(2024年11月発売)

■ 低GWP冷媒搭載 低温恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ ECOタイプを発売

- ・2024年11月、環境試験器のグローバルスタンダードモデル「プラチナスJシリーズ」よりECOタイプを発売
- ・独自の冷凍技術により、現行モデルと比較して消費電力を最大70%低減、低GWP※冷媒「R-449A」搭載により温室効果ガス排出量削減に貢献



低温恒温(恒湿)器プラチナスJシリーズ ECOタイプ

(2024年10月発売)

■ 低GWP冷媒搭載 急速温度変化装置を コスモピアハイテックが国内で初めて発売

- ・2024年10月、当社グループのコスモピアハイテックが国内初となる低GWP※冷媒「R-473A」搭載の急速温度変化装置を発売
- ・国際的な試験規格に適合するとともに、温室効果ガス排出量削減に貢献



急速温度変化装置プレミアムエクセレントシリーズ (EC-28PXHH)

※二酸化炭素を基準に、ほかの温室効果ガスの温暖化する能力を表した数字のこと。値が小さいほど環境負荷が少ない

【装置事業】新製品紹介②

(2025年1月拡充)

■受託計測サービス

半導体パッケージや実装基板等の放熱設計や熱解析CAEの精度向上に貢献

<熱変形計測サービス>

- ・半導体パッケージや実装基板の反り変形を可視化
- ・リフロー炉の温度環境(-40℃～+260℃)に対応
- ・300mmサイズの大型基板サイズに対応

<熱画像解析サービス>

- ・恒温環境(-40℃～+100℃)下における供試品の温度分布を可視化



熱変形計測システム

(2025年4月発売)

■ -70℃でおいしく急速冷凍 超低温ショックフリーザーを発売

- ・2025年4月、-70℃の超低温で食品を急速に冷凍し、生鮮食品も鮮度を保ちながら保存できる「超低温ショックフリーザー」を発売
- ・低風速環境下での冷凍を実現することで、食品の乾燥を防ぎながら、保存、解凍、再加熱まで1台で完結



超低温ショックフリーザー

【装置事業】環境試験器の納入事例①

■恒温(恒湿)室 建材用試験室の納入

(2018年7月納入)

<用途>

マンションの屋内(温湿度)と屋外(雨、雪、日射などの気象)の環境を再現し、サッシやバルコニーなどの建材の性能評価や耐久性試験を行う



恒温(恒湿)室 建材用試験室



恒温(恒湿)室は可動式になっており、試験用建材の入れ替えが容易にできます



照射装置と散水(降雨)装置を装備し、屋外の気象環境を再現します

【装置事業】環境試験器の納入事例②

(2016年3月納入)

■産総研 福島再生可能エネルギー研究所 スマートシステム研究棟(福島県郡山市)

納入製品:

大型恒温恒湿室

用途:

太陽光発電向けの
大型パワーコンディショナーの性能・安全性評価
100kwもの発熱負荷や重さ(21トン)にも対応



大型恒温恒湿室

■独立行政法人 製品評価技術基盤機構 蓄電池評価センター(大阪市南港)

納入製品:

- ①充放電試験用の恒温恒湿室
- ②外部短絡試験装置(エナジーデバイス装置)

用途:

- ①充電・放電を繰り返すことで蓄電池の性能を評価
- ②蓄電池がショートした場合に、発火や破裂しないことを確認し、安全性を評価



充放電試験用の恒温恒湿室

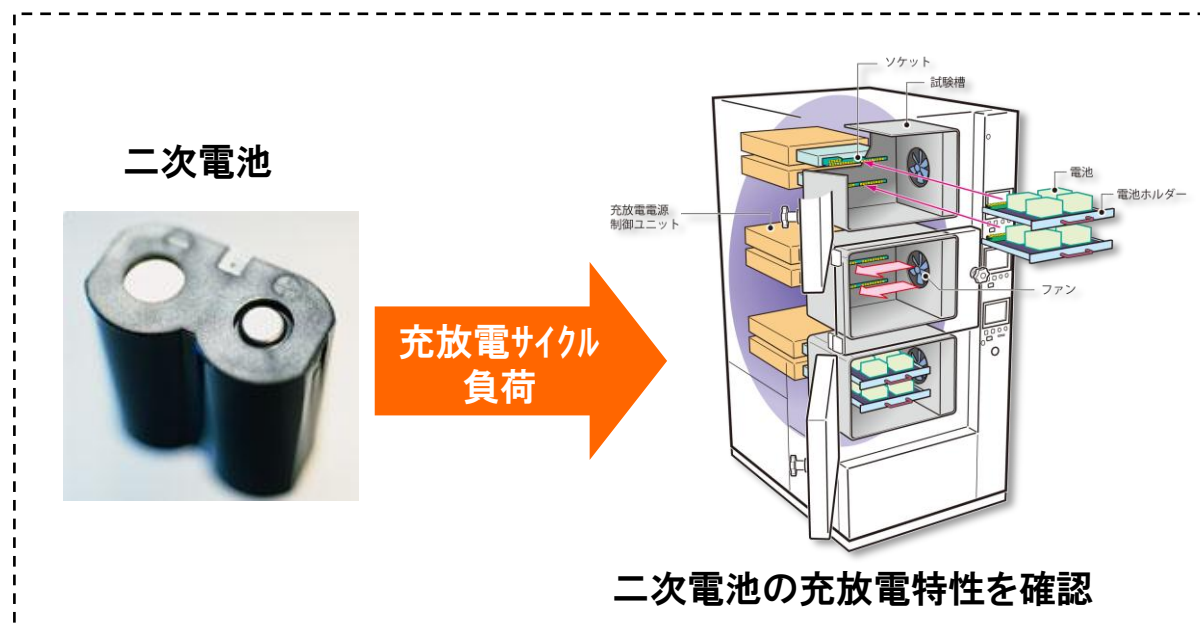
【装置事業】エネルギーデバイス装置の用途事例

充放電サイクル評価装置

ハイブリッド自動車や電気自動車など次世代自動車に用いられるリチウムイオン二次電池の信頼性や安全性を確保するための装置



二次電池用
充放電評価装置



＜二次電池の性能や寿命を評価＞

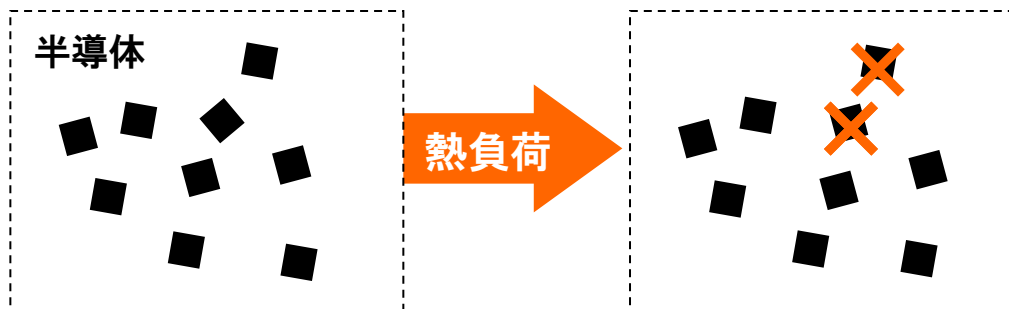
【装置事業】半導体関連装置の用途事例

スクリーニング

半導体デバイス製造の最終検査工程において、不良品を除去し
初期品質を確保



バーンインチャンバー



＜潜在的な初期故障を除去＞

信頼性評価

新しい技術開発において、信頼性確保に向けた基本的な故障形態を評価



導体抵抗評価システム



熱サイクル
負荷

はんだ接合部分の不良例



＜電子部品のはんだ接合部分の信頼性を電氣的に評価＞

【サービス事業】

アフターサービス・エンジニアリング

製品の予防保全、メンテナンスサービス、製品の改善・改良、設置・移設など

- 国内No.1のネットワークによるスピーディな対応
- モバイル端末(SIM)通信・クラウドを活用した「ネットワークサービス」を提供

受託試験・レンタル

受託試験・分析・評価、コンサルティング、製品レンタル、中古製品の販売、試験器校正など

- 国内5カ所、タイ1カ所、中国2カ所に受託試験所を展開
(国内:宇都宮・豊田・刈谷・常滑・神戸、タイ、中国:上海・蘇州)
 - ・ 計量法校正事業者認定制度(JCSS)に基づく校正機関
- 「バッテリー安全認証センター」にて車載用二次電池の安全性に関する国連規則に適合した試験・認証のワンストップサービスを提供
 - ・ 2014年10月、第三者認証機関テュフズードジャパン(株)と業務提携
 - ・ 2015年9月、栃木県宇都宮市に開設、2025年2月には愛知県常滑市にも開設
- ISO/IEC 17025*試験所認定を自動車・鉄道・航空機の3分野で取得
- 豊田試験所では、国内初ドイツ自動車業界規格「LV124」の全試験項目に対応



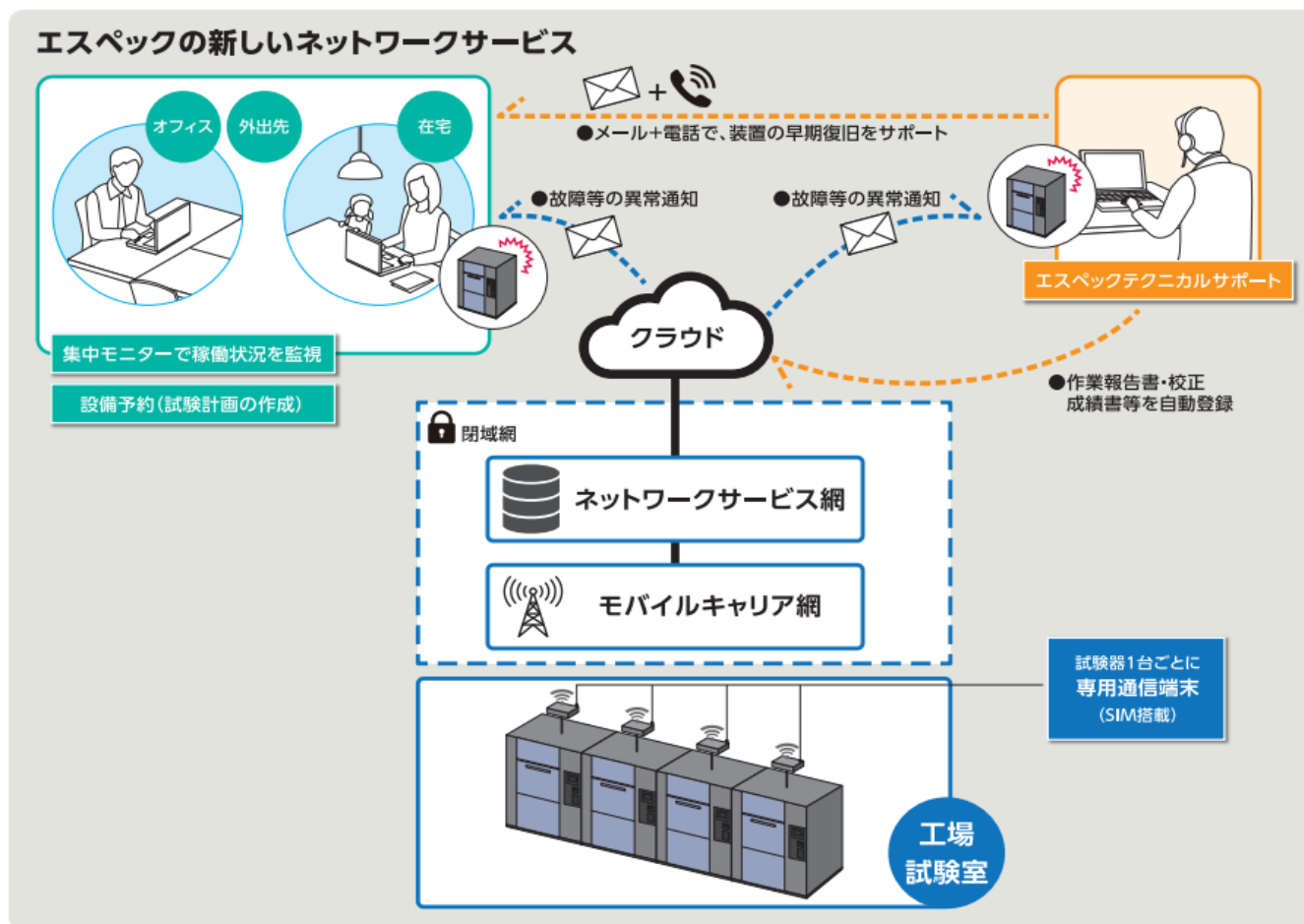
とちぎバッテリー安全認証センター
(宇都宮テクノコンプレックス内)

※ISO/IEC17025:試験所・校正機関が正確な測定/校正結果を生み出す能力があるかどうかを権威ある第三者認定機関が認定する国際標準規格

【サービス事業】アフターサービス

(2022年4月開始)

モバイル通信・クラウド活用「ネットワークサービス」
お客さまの試験・設備管理の負担軽減、装置のダウンタイムを低減



【サービス事業】受託試験サービス

世界初 国連規則に対応 「とちぎバッテリー安全認証センター」

- ・2015年9月、宇都宮テクノコンプレックスに開設
- ・国連規則ECE R100-2. Part II で定められた9項目の安全性試験の実施・認証機関への認証申請をサポートするワンストップサービスを提供



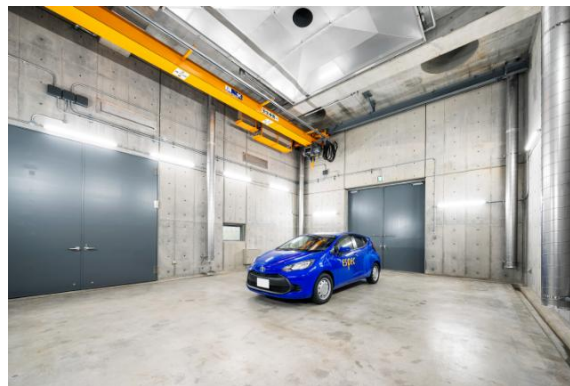
圧壊試験機(第1安全試験室)



第2安全試験室

国内最大級 車載バッテリー専門試験所 「あいちバッテリー安全認証センター」

- ・2025年2月、あいち次世代モビリティ・テストラボ 常滑サイトに開設
- ・最新の試験設備により、車載用バッテリーの大型化、高容量化に対応



自動車が入る安全試験室

【サービス事業】受託試験サービス

自動化モジュールなど多岐にわたる 車載用電装品の試験に対応

- ・2019年9月、豊田試験所にて、ドイツ自動車業界規格LV124の全試験項目に対応
- ・2025年4月、機能を拡張し、EV・自動化モジュールの動作状態での使用環境を再現し、評価・計測するサービスを新たに強化



豊田試験所(愛知県豊田市)

国内初 受託試験サービス 100%再生可能エネルギーを実現

- ・2021年4月より、全国の試験所(宇都宮・豊田・刈谷・神戸・とちぎバッテリー安全認証センター・あいちバッテリー安全認証センター)で実施する受託試験サービスを再エネで提供
- ・お客さまのサプライチェーンにおけるCO2排出量削減に貢献



CO2排出量ゼロを明示する「グリーンパワーマーク」
当社試験所で実施した試験報告書に表記

【その他事業】

環境保全

■ 森づくり

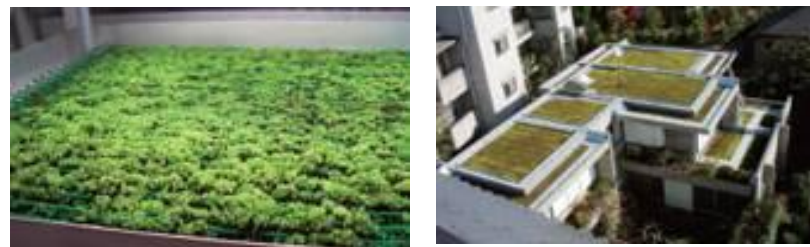
潜在自然植生データによる樹種選定、幼苗植栽手法を用いた郷土の森づくり

■ 水辺づくり

水生植物を活用した、自然環境復元、植生護岸の形成、水質浄化

■ 都市緑化

ヒートアイランド現象の緩和に効果的な苔による屋上・壁面緑化システム



植物育成装置

植物の育成に必要な光・温湿度・養分などを最適にコントロールして植物を育成する植物工場や研究用育苗装置



植物工場



ファイトロン

【その他事業】植物育成装置

農研機構と共同開発 「栽培環境エミュレータ」

- ・2022年10月、農研機構などと共同で特許を取得※
- ・季節ごとの二酸化炭素濃度、温度、湿度等を精密に再現
- ・気候変動に適応した作物生産技術の開発に貢献



栽培環境エミュレータ

※エスペックミック株式会社、
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）、
国立研究開発法人理化学研究所、一般財団法人 アグリオープン
イノベーション機構が共同で取得

海洋深層水を使用した 高付加価値野菜を生産

- ・羽田空港近郊に設置した植物工場において、
海洋深層水を使用したミネラル豊富な高付加価値
野菜を生産・販売



植物工場と生産野菜「ミネラルリーフ」

【その他事業】環境保全・植物育成装置

2025大阪・関西万博にて 会場の緑化およびアクアポニックス展示に協力

■会場に植物を植栽したマットや苗を提供

- ・「大屋根リング」には日本の在来種であるチガヤを植栽したマットやススキの苗を、「静けさの森」には野草や池の水際を縁取る水生植物を提供
- ・EXPOナショナルデーホールやハンガリー館、クウェート館、シグネチャーパビリオン等にも提供



大屋根リング

■「大阪ヘルスケアパビリオン」展示に協力

- ・大阪公立大学植物工場研究センターと連携し、アクアポニックスの展示に協力
- ・野菜栽培技術やノウハウを提供

アクアポニックスとは：水耕栽培と陸上養殖を掛け合わせた循環型生産システム。魚類の糞尿を微生物に分解させ、野菜の生育に必要な栄養源として活用。化学肥料を使用しない、または低減した野菜生産が可能。



アクアポニックス「いのちの湧水(いずみ)」

【その他事業】植物育成装置の納入事例

■鳥取大学乾燥地研究センター

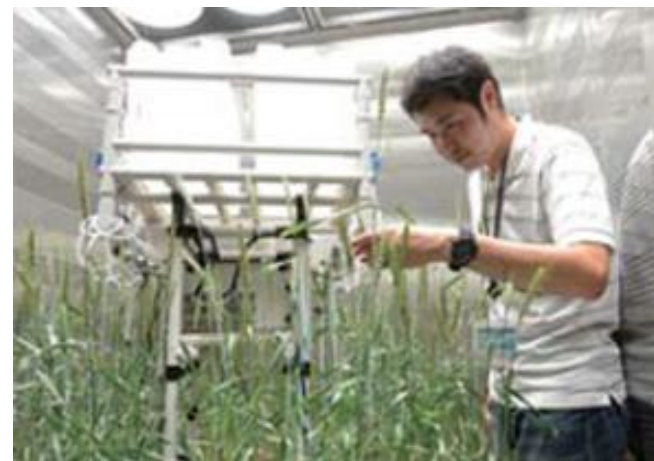
(2016年3月納入)

納入製品： 乾燥地植物気候変動応答実験設備 2基
(高温、低湿、強光、強風など乾燥地の気候を再現)

用 途： 乾燥地での植物の栽培実験や効率的な水利用技術の開発実験など
乾燥地問題の解決に向けた研究



乾燥地植物気候変動応答実験設備



実験の様子
(小麦の乾燥ストレスを実験)

全天候型試験ラボの紹介(神戸R&Dセンター内)

(2021年3月)

世界初「全天候型試験ラボ」をオープン オープンイノベーションを推進し環境創造技術を強化

7つの環境因子(温度・湿度・雪・霧・雨・光・風)を高精度に制御・可変し
動的気象環境(刻々と変化する気象環境)を再現

■ 全天候型試験ラボ



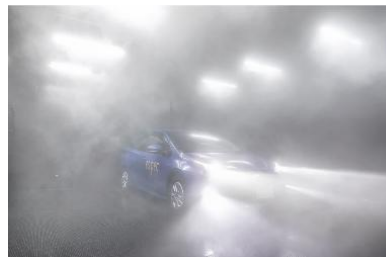
試験室 幅6m×奥行9m×高さ3m
光の乱反射を抑える黒色コーティング

■ 動的気象環境における試験例



① みぞれ→雪への変化を再現する試験

水分量の異なる雪を再現でき、自然環境に近い0℃前後での降雪も可能。雪質と温度を制御し、みぞれから雪への変化を再現。着雪が課題となっている自動運転用センサーの性能を確認できる。



② 雨→霧への変化を再現する試験

霧の濃さと温湿度を制御し、雨から霧への変化も再現。霧の影響を受ける自動運転用センサーの性能を確認できる。

証券コード6859

参考資料 サステナビリティの取り組み

2025年11月21日
エスペック株式会社

当社は企業理念「THE ESPEC MIND」のもと
環境創造技術をかなめとした事業で社会や環境の
課題解決に貢献し、持続的な成長を目指しています。

創業当時から脈々と伝わるエスペックの大切な価値観 企業理念「THE ESPEC MIND」(抜粋)

起 点

社会の公器として、すべてのステークホルダー
とより良い価値交換を目指す

使 命

環境創造技術でより確かな生環境を提供

スタイル

プログレッシブ(進取的な)、リライアブル、オープン、フェア

宣 言

社会に約束すること「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」

サステナビリティ方針とマテリアリティ

持続的成長に向けて、サステナビリティ方針を策定し、「社会的価値」「経済的価値」を創出していくために取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定

サステナビリティ方針

- 企業理念「THE ESPEC MIND」の実践により、「社会的価値」と「経済的価値」の創出と向上を図ります
- ステークホルダーとのより良い価値交換により持続的成長を目指します
- ESPEC Vision 2025のもと、「環境創造技術」をかなめとした事業活動を通じて地球環境や社会課題の解決に貢献します
- サステナビリティに関する情報開示を積極的行います

マテリアリティ

- | | |
|---------------------|---------------|
| ・グローバルな事業を通じた社会課題解決 | ・人権の尊重 |
| ・責任ある製品サービスの提供 | ・デジタル技術の活用 |
| ・環境への配慮 | ・グループガバナンスの強化 |
| ・多様な人材の確保・育成 | |

企業価値創造プロセス

エスペックの企業価値創造

投下資本

財務資本

製造資本

知的資本

人的資本

社会関係資本

自然資本

エスペックの価値観
「THE ESPEC MIND」
“プログレッシブ”

ビジョン
「ESPEC Vision 2025」

マテリアリティ
(重要課題)

中期経営計画
「PROGRESSIVE PLUS 2027」

E
環境

S
社会

G
ガバナンス

事業活動

装置事業

- ・環境試験器
- ・エネルギーデバイス装置
- ・半導体関連装置

サービス事業

- ・アフターサービス、エンジニアリング
- ・受託試験、レンタル

その他事業

- ・環境保全
- ・植物育成装置

使命・存在意義

- ・環境創造技術でより確かな生環境を提供
- ・ステークホルダーとの価値交換性の向上

提供価値

先端技術の安全・安心に貢献

ステークホルダーの信頼に
応える

従業員の多彩な「成長支援」
と「活躍機会の提供」

地球環境への貢献

エスペックの事業

装置事業

環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献

・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●環境試験器

温度や湿度などの環境因子を人工的に再現し、製品の信頼性を確保する環境試験器を提供

●エネルギーデバイス装置

電気自動車(EV)などに搭載される二次電池や燃料電池の評価装置を提供

●半導体関連装置

半導体の検査用バーンイン装置や計測評価システムなどを提供



恒温恒湿器
プラチナスJシリーズ



自動車一台入る
実車試験装置



半導体検査用
バーンインチャンバー



二次電池用
充放電評価装置

エスペックの事業

サービス事業

環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献

・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●アフターサービス・エンジニアリング

お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう
製品のメンテナンスや予防保全を実施

●受託試験サービス

環境試験で培った技術と試験ノウハウで受託試験
サービスを提供



ITを活用したテクニカルサポート



国連規則など二次電池の各種安全性試験に対応
バッテリー安全認証センター

エスペックの事業

環境保全事業

生物多様性保全への貢献

生物多様性やCO2の固定化に貢献する「森づくり」のほか、自然の河川を取り戻す「水辺づくり」、在来種による「草地づくり」など自然環境を復元する環境保全事業



仙台市輪王寺参道の
復元された森



東京都 隅田川テラスにおける
水辺づくり

植物育成装置事業

地球温暖化や異常気象に対応した食の安定供給への貢献

温度や光などを制御し、効率的に野菜を生産できる植物工場や研究用装置のほか、水や養分を循環させて野菜と魚と一緒に育成するアクアポニックスなどのシステムも提供



海洋深層水を利用した植物工場
ミネラル豊富な野菜を生産・販売



乾燥地植物気候変動
応答実験設備
(鳥取大学 乾燥地研究センター)

環境・エネルギー問題の解決に貢献する製品・サービス

■ 二次電池や燃料電池、太陽電池、パワーデバイスの性能や耐久性を評価する製品群



二次電池用
充放電評価装置



燃料電池用
環境試験装置



太陽電池モジュール用
温度サイクル試験システム



パワーデバイス用
パワーサイクル試験装置

■ 車載用二次電池の安全性に関する国連規則に適合した 「バッテリー安全認証センター」

- ・2014年10月、第三者認証機関テュフズードジャパン(株)と業務提携
- ・2015年9月、栃木県宇都宮市に開設、2025年2月には愛知県常滑市にも開設



とちぎバッテリー安全認証センター
(栃木県宇都宮市)

■ 再生可能エネルギー100%による受託試験サービス(国内)

環境目標・環境中期計画

2030年度 環境目標

温室効果ガス排出量(2019年度比)

SCOPE 1+2(自社排出) 60%削減、SCOPE 3(間接排出) 30%削減

2023年7月、国際的なSBTイニシアチブ※より「SBT(Science Based Targets)」認定を取得

※SBTイニシアチブ

パリ協定の目標達成に向け、企業に対して科学的な根拠に基づいた温室効果ガス排出量の削減目標の設定を推進している国際的なイニシアチブ。CDP、UNGC(国連グローバル・コンパクト)、WRI(世界資源研究所)、WWF(世界自然保護基金)が共同で運営。



第8次環境中期計画(2022年度～2025年度)

基本方針「グリーンテクノロジーを開発されているお客さまへの事業を通じた貢献」
地球温暖化対策および生物多様性保全を中心に取り組みを強化

＜2025年度 目標＞

- ・温室効果ガス排出量(2019年度比) SCOPE 1+2 55%削減、SCOPE 3 10%削減
- ・エスペックミック植樹本数50,000本・CO2固定貢献95t(累計)
- ・兵庫県三田市「エスペック50年の森」運営による生物多様性保全活動

生物多様性保全の取り組み①

生物多様性保全活動の拠点 神戸R&Dセンター 「エスペックバンビの里」が環境省「自然共生サイト」認定

社員が約3万本の在来種を植樹し育てた森や、六甲北部の在来種を用いた技術開発棟の屋上緑地、2つの池と小川からなるビオトープを設置
2023年10月、環境省「自然共生サイト」に認定され、2024年8月、OECM※として国際データベースに登録



全国みどりの工場大賞
National Award for Greenery Factory

経産省「全国みどりの工場大賞」

2024年度「経済産業大臣賞」を受賞



2025年度 いきもの共生事業推進協議会
「いきもの共生事業所(ABINC)認証」を更新

※OECM (Other Effective area based Conservation Measures) : 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

生物多様性保全の取り組み②

生物多様性保全活動 「エスペック50年の森」

- ・2022年11月、兵庫県三田市にて林野庁「法人の森林」制度を活用した森づくりを開始
- ・2024年4月までに全3回の植樹祭を開催
- ・2年間で社員などのべ約400名が参加、計12,000本を植樹



第3回植樹祭
苗は炭素固定・生物多様性機能をふまえて選定

エスペック地球環境研究・技術基金

- ・地球環境保全に関する研究・技術開発に対して毎年資金援助を実施
- ・1997年設立から27年間で計344団体に総額1億7,391万円を助成



第28回授与式

人的資本の最大化に向けた取り組み

企業文化の良質化/組織マネジメント

- ラウンドアップ研修会、ダイレクトコミュニケーション、全社イベント、1on1ミーティング、さん付け呼称
- エンゲージメント調査、人材アセスメント、360°サーベイ
- チャレンジを生み出す評価制度

個の成長支援

- キャリア研修
- 語学学習支援
- リカレント教育
- 通信教育

会社

- 多彩な成長支援
- 活躍機会の提供

企業価値の向上

成長の喜びをシェア
従業員と経営が一体化し
活気にあふれている

従業員

- 自律的な成長
- 働きがい

経営戦略と連動した人材育成

- 次世代経営幹部の育成
- グローバル人材
- DX人材、デジタル人材

ダイバーシティ&インクルージョン 社員の健康と安全の確保

- 女性社員、シニア社員活躍推進
- 健康増進、メンタルヘルスケア
- 障がい者雇用率の向上
- 人権、ハラスメント教育

社会貢献活動

従業員参加型の寄付制度 「エスペックスマイルクラブ」

- ・従業員の寄付金に会社が寄付金を上乗せするマッチングギフト制度を活用し、子供と医療関係の社会貢献活動を行う団体に寄付
- ・2025年4月、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの「パレスチナ・ガザ地区 緊急子供支援」と、「2024年能登半島地震 緊急子ども支援」に総額907,700円を寄付



障がい者就労農園の収穫野菜を 子ども食堂に寄付

- ・障がい者就労農園「エスペックスマイルファーム」※で収穫した野菜を地域の子ども食堂へ定期的に寄付

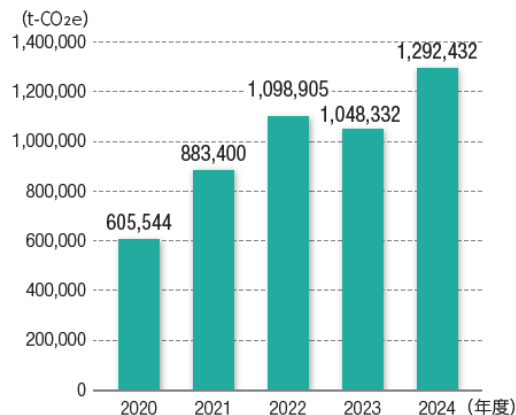
※2021年11月、障がい者雇用支援会社が運営する貸農園内に開設。障がいのある方3名と管理業務を行う1名、計4名を採用



非財務データ①

温室効果ガス排出量

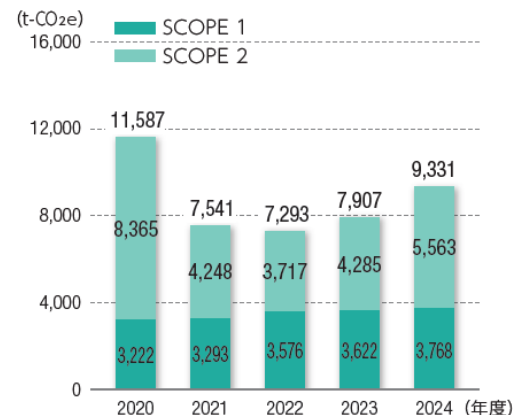
SCOPE 1+2+3合計(連結※)



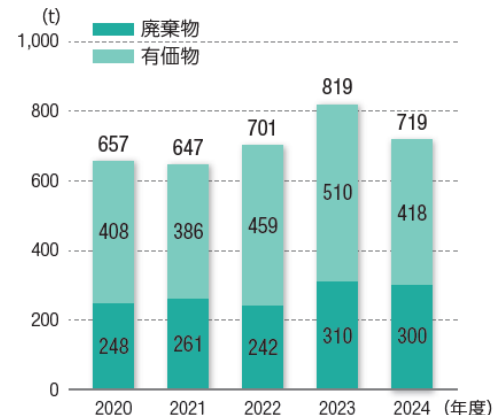
※ 2023年度は、2023年8月から連結対象となったコスモピアハイテック株式会社を除く

温室効果ガス排出量

SCOPE 1+2(自社排出)(連結※)

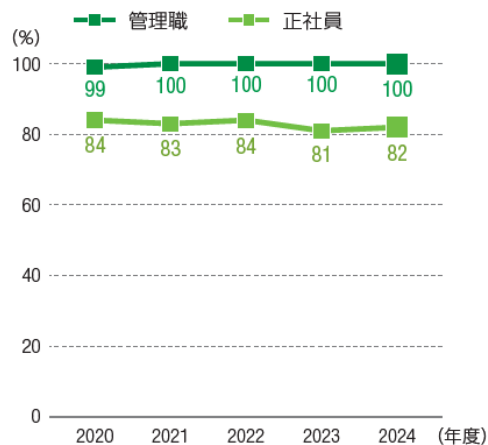


排出物総量(単体)



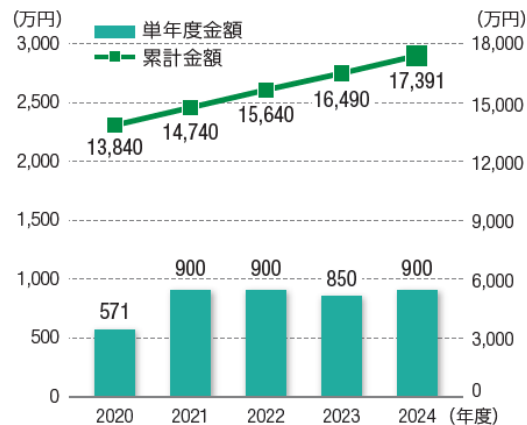
環境社会検定試験(eco検定)

資格取得率(単体)

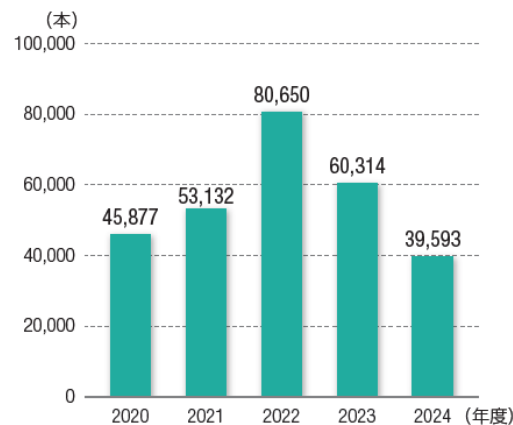


エスパック地球環境研究・

技術基金による助成



環境保全事業による植樹本数

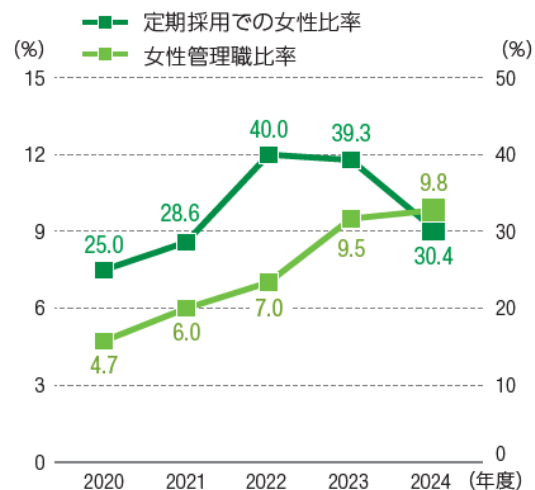


※エスパックミック株式会社 実績

非財務データ②

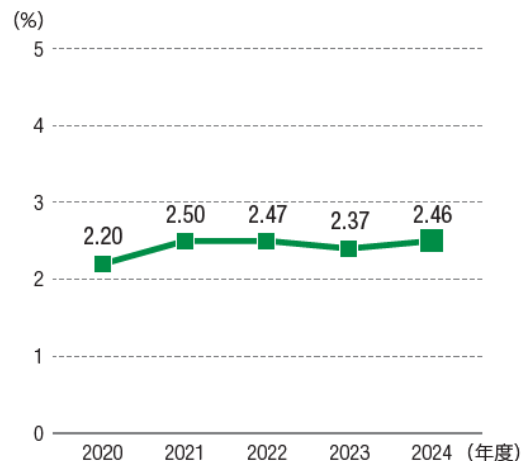
女性管理職比率

定期採用での女性比率(単体)



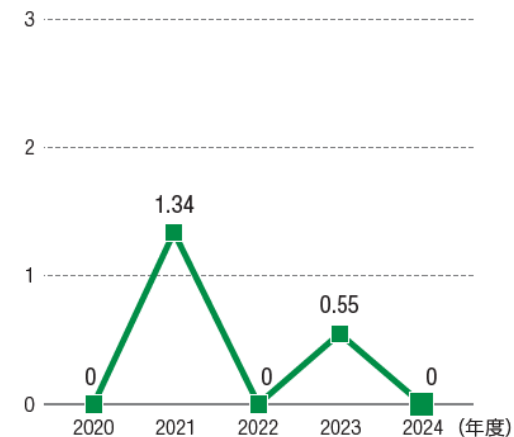
※翌年度の4月1日時点

障がい者雇用率(単体)



※各年度末時点

労働災害度数率※(単体)



※休業災害被災者数/延べ労働時間数×100万時間

非財務データ③

(年度)		2020	2021	2022	2023	2024
従業員数 ^{※1} (連結)		1,526名	1,628名	1,691名	1,775名	1,860名
従業員数 ^{※1} (単体)	男性	658名	643名	636名	633名	663名
	女性	122名	127名	142名	157名	175名
	合計	780名	770名	778名	790名	838名
平均勤続年数(単体)		19.2年	19.1年	17.2年	17.0年	15.3年
平均年齢(単体)		43.1才	43.0才	41.2才	41.4才	40.3才
離職率 ^{※2} (単体)		2.3%	1.6%	1.4%	3.3%	2.3%
平均残業時間(単体)		11.0時間	15.5時間	22.6時間	20.1時間	21.9時間
年次有給休暇取得率(単体)		65.8%	69.1%	75.1%	74.3%	77.8%
男女の平均賃金の差異(単体)		—	—	70.3%	72.5%	73.5%
育児休業取得率(単体)	男性	12.5%	30.8%	13.3%	52.9%	56.0%
	女性	100%	100%	100%	100%	100%
教育投資額(単体)		—	—	101百万円	129百万円	135百万円
労働災害件数(不休災害を除く)(単体)		0件	2件	0件	1件	0件
取締役会 ^{※3} (単体)	独立社外比率 ^{※4}	25%	25%	40%	40%	40%
	女性比率 ^{※4}	0%	0%	20%	20%	20%
内部通報件数(単体)		0件	0件	0件	1件	0件
コンプライアンス問題の発生件数(単体)		2件	1件	3件	2件	2件

※1 各年度末時点

※2 定年退職者を除く

※3 2022年6月、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行

※4 各年度6月末時点

社外からの評価

■ ESG関連の評価

- ・ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
ESG指数「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」組み入れ
- ・CDP 気候変動分野の調査で5年連続「Bスコア」、水セキュリティは「B-スコア」
「サプライヤーエンゲージメント評価」では、3年連続最高評価の
「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定
- ・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ
「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に2年連続で選定
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5星
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」3つ星
- ・神戸R&Dセンターが全国みどりの工場大賞「経済産業大臣賞」受賞
- ・厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として「プラチナくるみん」取得
- ・大阪市「女性活躍リーディングカンパニー」認証にて
「三つ星認証」「イクメン推進企業認証」取得

■ IRサイトの評価

- ・「大和インターネット IR表彰」優良賞
- ・日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト
- ・「Gomez IRサイトランキング」銅賞(業種別17位)
- ・「Gomez ESGサイトランキング」優秀企業



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

サステナビリティ推進部 IR・広報グループ

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

Quality is more than a word

ESPEC